



(4,000円)

実用新案登録願

昭和54年9月18日

特許庁長官 川原能雄殿

1. 考案の名称

ゴウセイジュ シセイブクロ
合成樹脂製袋

2. 考案者

住所 実用新案登録出願人に同じ
氏名

3. 実用新案登録出願人

住所 東京都板橋区赤塚新町3-21-11
氏名 アカツカシンマチ
(国籍) キムラケンイチ
木村 欣一

4. 代理人 住所 東京都中央区京橋三丁目1番2号(片倉ビル)104

氏名 (6179) 代理人弁理士 市川理吉

(外1名)

5. 添付書類の目録

- | | |
|-----------|-----|
| ✓ (1) 明細書 | 1 通 |
| ✓ (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| ✓ (4) 委任状 | 1 通 |

✓ 54 125993

46550

方式
印

明 細 書

1. 考案の名称

合成樹脂製袋

2. 実用新案登録請求の範囲

袋状に閉塞された合成樹脂製袋の閉塞縁中の選ばれた一つの閉塞縁において、その端部寄り位置に、該閉塞縁から対向する閉塞縁方向に向う適宜幅の比較的短かい溶着線が、前記選ばれた一つの閉塞縁に連続し、かつ前記合成樹脂製袋の表、裏の各シートを溶着して設けられていることを特徴とする合成樹脂製袋。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、内容物が充填されている4縁辺が閉塞された合成樹脂製袋に関するものであり、主として塩、砂糖等の粒状物を封入するのに使用される合成樹脂製袋を提供するものである。



塩，砂糖，化学調味料等は、合成樹脂製の袋に封入されて小売店から消費者に販売されているが、各家庭では、これを更に別の容器に移し換えるに当つて、袋の片隅をハサミで切り落して取出口を作り、この取出口から必要量の塩や砂糖を取り出すようにして、残りのものはそのまま合成樹脂製袋の中に入れたまま保存ケース中で保存したり、あるいは、小袋に入っている比較的少量のものの場合には、別の容器に移し換えることなく、同様に袋の片隅をハサミで切り落して取出口を作り、使用の度毎にこの取出口から必要量の塩や砂糖を取り出すようにしているが、このようにして作られた合成樹脂製袋の取出口は、特別の蓋体で覆う以外には開放されたままになっているので、食品衛生的観点からは好ましいものではない。

本考案は、実用新案登録請求の範囲に記載した構成とすることにより、消費者がハサミで切り落すことによつて作製した取出口を、紙クリップ等の簡単な止め具で閉止することのできる合成樹脂製袋を提供するものである。

以下本考案の合成樹脂製袋の構成を図示実施例に基づいて説明する。

第1図において、本考案の合成樹脂製袋1は筒状の押出シートの上縁2、下縁3が溶着線4、5で閉塞されて製作されているものであり、選ばれた一つの閉塞縁たる溶着線4において、その端部6寄り位置に、溶着線4から対向する閉塞縁たる溶着線5方向に向う、巾1cm程度の比較的短かい溶着線7が、前記選ばれた一つの閉塞縁たる溶着線4に連続して、合成樹脂製袋1を構成する表、裏の各シート8、9を溶着して



設けられているものである。

本実施例においては、比較的短かい溶着線 7 の巾を約 1 cm 程度のものになっているが、該溶着線 7 の巾は、合成樹脂製袋 1 全体の大きさ等により適宜の巾が選定されるものであり、後述するように、この溶着線 7 は、ハサミで左、右に切り裂くことのできる程度の所要巾であればよい。また溶着線 7 は、選ばれた一つの閉塞縁から対向する閉塞縁の方向に向うものであればよく、必ずしも選ばれた一つの閉塞縁から直角方向に向う必要はなく、例えば第 1 図に符号 7' で示したように斜方向に向かうものであつてもよい。

また、第 1 図示実施例においては、筒状のシートの上縁 2 と下縁 3 とを溶着線 4 , 5 で閉塞された合成樹脂製袋とされているが、2 枚の合



成樹脂製シートの４周を溶着したもののや、または１枚の合成樹脂製シートを２つ折りにし、折れ曲げ線以外の３縁辺を溶着したもの、あるいは内容物が充填されるとき底部となる部分、すなわち第１図で符号１で示される合成樹脂製袋における下縁３に相当する部分が襷部で構成されているような合成樹脂製袋にも本考案は適用し得るものである。

本考案の内容物が充填されている合成樹脂製袋は叙上の通りの構成から成るもので、例えば第１図示実施例に示されるような構成の合成樹脂製袋の場合には溶着線４または５に相当する部分を開放口にした状態の袋に、該開放口から内容物を充填し、しかる後にこの開放口を溶着線で閉塞することにより、内容物が充填された本考案の合成樹脂製袋とすることができる。



内容物が充填されている本考案の合成樹脂製袋内から、内容物を取り出すには、合成樹脂製袋 1 に付設されている溶着線 7 の略中央に、第 2 図に示したようにハサミ等で切り込み線 10 を入れたうえで、溶着線 4 の端部 6 を切り落すことによつて、該部に開放口 11 を形成させ、この開放口 11 を取出口として使用するものである。したがつて、合成樹脂製袋 1 内から内容物を小出しにした後で、残存内容物をそのままにして保存ケースで保存するような場合には、前述の開放口 11 を第 3 図に示すようにして巻き込んだ上に、紙クリップ 12 等を係止させるだけの簡単な操作で、開放口 11 を閉止することができるので、塩，砂糖，化学調味料等の充填されている食品の取り出しとその閉止が極めて容易であり、衛生上からも極めて好ましいも



のである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の合成樹脂製袋の正面図、第2図は第1図の合成樹脂製袋に開放口を作製したものの正面図、第3図は第2図の合成樹脂製袋の開放口を紙クリップで閉止した斜面図である。

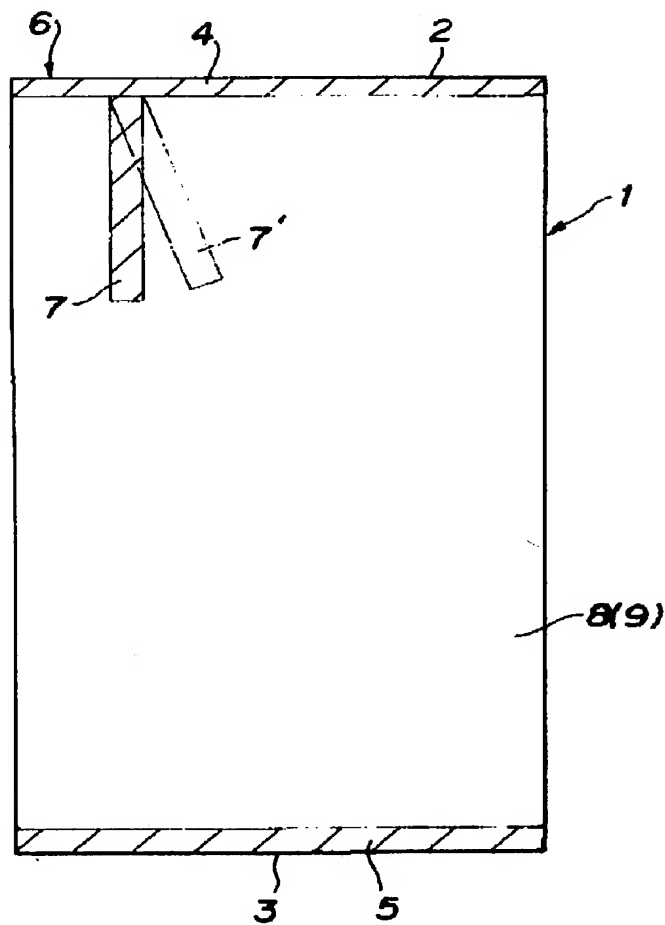
1 … 合成樹脂製袋、4 … 選ばれた1つの閉塞縁たる溶着線、5 … 対向する閉塞縁たる溶着線、7 … 合成樹脂製袋の表、裏の各シートを溶着している溶着線。

実用新案登録出願人 木 村 欣 一

代 理 人 市 川 理 吉

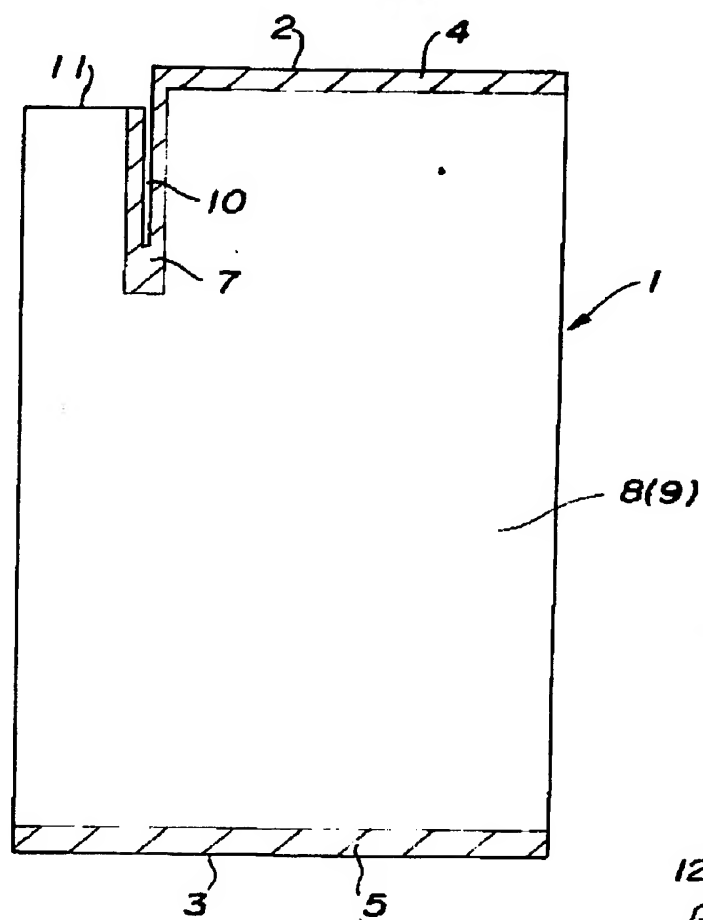
代 理 人 速 藤 達 也

第 1 図

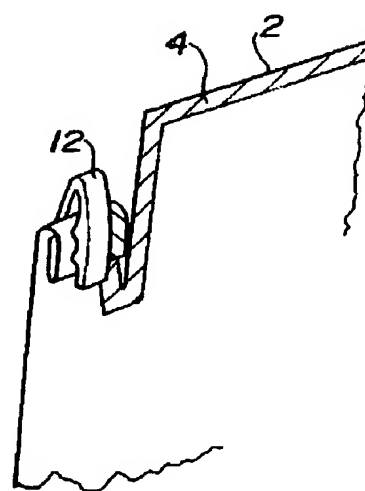


1/2

第 2 図



第 3 図



200 $\frac{2}{2}$

6. 前記以外の代理人

東京都中央区京橋三丁目1番2号 片倉ビル

(6741) 辦理士 遠 藤 達 也



以 上

46550